

豆狸の寝言

副会長 三原幸二

東京出張からの帰り。新幹線が名古屋駅に到着した時のことです。

私の並びの反対側の座席に、80才近い上品なご夫妻が乗り込んでこられました。ご主人の方はすぐに座席に座られましたが、奥さんの方は立ったまま私の座席の方の窓を向いて、しきりに腕を振って「帰り、帰り」というジェスチャーをされていました。

何だろう？と窓の外に目をやると、若い男女がいて女性の方が窓に近づいて手を振っていました。見かけたところ老夫婦のお孫さん夫婦のようでやはり上品な清々しい感じの二人でした。ホームにいる男性の方は間がもたないといった風で、ほかの方に目をやったりして発車の時間を待っている様子でしたが、決して帰ろうとはしませんでした。

想像するに、若夫婦のところに遊びに来てこれから帰るところなのか、はたまた、どこか旅行に行くのに若夫婦に送ってもらったのか。

どちらにせよ、若夫婦を気遣って、「私たちのことはいいからもう帰りなさい」といった振る舞いをする老夫婦の思いと、せめて新幹線が発車するまでも送りたいと老夫婦を思いやる若



い二人の思いがそこにはあり、見ていてなんとも微笑ましい気持ちになりました。

今の世の中、身内の間での争い事や、最悪殺人に至ってしまうといった事件が後を絶たない中で、それぞれが相手のことを思いやっているその光景に私は心がほっこり温まるような思いがしました。

そして、私も早く我が家の風呂につかりたくなり帰路を急ぎました。

(小さな思いやり) 2008年執筆